

## 追悼文 名誉会員 故 伊藤 明弘 博士

ホルモン先生の愛称でご活躍され、長年の闘病生活を送られていた伊藤明弘先生は8月24日、敗血症のため他界されました。

先生は昭和13年1月3日広島県に生まれ、同37年3月広島大学医学部医学科を卒業し、同42年3月同大学大学院医学研究科博士課程単位修得退学、同年4月同大学原爆放射能医学研究所副助手、同43年1月同大学原爆放射能医学研究所助手、同50年7月同大学原爆放射能医学研究所助教授、同年8月国立がんセンター研究所病理部第二組織病理研究室長、同53年4月広島大学原爆放射能医学研究所助教授、同54年4月同大学原爆放射能医学研究所教授に就任され、平成13年3月同大学を停年退職し、同年4月同大学名誉教授の称号を授与されました。広島大学退職後は、平成13年4月から同17年3月まで医療法人恒和会介護老人保健施設牛田バラ苑の施設長を務めておられました。

少し、学問的でない話をさせていただきますが、毒性病理学会や発がん病理の折りはご活躍でアルコールが入るともっと賑やかになる先生でした。多くの人にご迷惑をお掛けしたのではと推察します。あれ〜と思われるかも知れませんが、豪快に見えた先生も意外と繊細でした。

このホルモン先生という愛称は、毎日ホルモン焼きを食べていてエネルギーが少なかったからだと言及んでいます。実際、先生は下垂体ホルモン産性腫瘍 MtT/F34 の培養株を確立されました。このようにホルモンの研究をやっていたからだという説もありました。でも結局、退官講演の題名はホルモンと発がんでした。

カタラーゼの少ない C57BL マウスに過酸化水素水を与えますと十二指腸に腫瘍が出来ますが、カタラーゼの多い C3H マウスでは腫瘍は出来ず、その F1 マウス、B6C3FI や C3B6F1 では C57BL マウスの半分の発生率で腫瘍が出現し、更にカタラーゼの欠損しているアカタラセミアマウスでは沢山誘発することから、カタラーゼと発がんとの関係を明らかにされました。又、腫瘍の可視化のためにアルカリフォスファターゼを用いられた事はこの分野の研究を発展させました。

私がイギリスの留学から1989年に帰国すると直ぐに「渡邊君味噌の研究をやってくれ」と言われたときは何で私が、と思いましたが、その言葉で、私は今も味噌の研究を続けてさせていただいております。「たかが味噌、されど味噌」と感じていて、私の研究の端を作ってくれたホルモン先生に感謝しています。私が独立した後でも先生は、味噌による放射線や発がん物質での肝腫瘍抑制、発がん物質で誘発した乳がんを抑制するという結果を発表されています。

さて第10回日本毒性病理学会は広島で開催され、その会長を務められました。その折に若い人のために奨励賞があったらかれらの励みになるのではと提案され、今でもこれが続いているのはホルモン先生のおかげです。

本学会の発展に大いに貢献された先生は、今ごろ他界された多くの諸先輩、伊東 信行先生、林裕造先生、小西 陽一先生、白井 智之先生達と一献傾けながら、日本毒性病理学会の未来について口角泡を飛ばして議論されている事でしょう。

本学会に対するご尽力に深く感謝の意を表しご冥福をお祈りします。

2017年10月20日  
広島大学名誉教授  
渡邊敦光